

あそぶ・まなぶ・語る

周防大島町総合体育館陸上競技場 / 日本ハワイ移民資料館
八幡生涯学習のむら / 宮本常一記念館

第41号
2023年2月

開催中

「大島今昔写真」

八幡生涯
学習のむら

昭和30～40年代の写真を中心に、旧大島の景観とくらしの変化を紹介する写真展



小松開作港。昭和40年代。周防大島町教育委員会蔵

を開催します。

旧大島町は、周防大島の中でも川幅が広く長い屋代川を持ち、流域の屋代地区は古くから周防大島の中心のひとつでした。ま

た、屋代川河口に形成された広い三角州では塩作りが行われ、江戸時代には塩田事業も開かれました。開作港は塩の積み出し港としてにぎわい、小松開作には料理屋や商家が立ち並びました。近代になり道路が整備されると、小松港と対岸の大島を結ぶ連絡船の発着にあわせてバスが走り、小松は周防大島の海陸交通の要として発展してきました。他の地区や海岸線を写した写真からも松並木が消え道路が広がっていく様子がうかがえ、日常の交通手段が徒歩や船から自転車や自動車へと移り変わっていく事がわかります。懐かしい町の移り変わりをぜひご覧ください。

【期間】令和5年1月24日(火)～3月26日(日)

【時間】9時～16時

【休館日】月曜(祝日の場合はその翌日)

【場所】八幡生涯学習のむら 学びの間

【問合せ】0820・72・2601

企画展

宮本常一関係資料

を紐解く

令和4年3月4日、宮本常一記念館に保管されている文書資料414点が、「宮本

常一関係資料」として山口県指定の有形文化財(歴史資料)になりました。

◀長崎県対馬の調査ノート

『忘れられた日本人』のもとになった聞き書きが収録されている



このたび指定された資料は、宮本が民俗調査に臨んで作成した聞き書きやスケッチ、統計表、古文書類を筆写したノートなどです。その作成範囲は北海道の礼文島から鹿児島県の屋久島まで及び、わが国の農山漁村の生活や文化を理解するうえで欠くことのできないものばかりです。この県指定を記念し、当館では企画展「宮本常一関係資料を紐解く」を左記のとおり開催します。

【期間】令和5年3月25日(土)～5月14日(日)

※水曜日ほか休館日を除く

3月25日、4月30日、5月14日は

ギャラリートークを行う予定です

(各日11時開始)

【場所】宮本常一記念館展示室

【観覧料】通常の入館料でご覧いただけます。

大人300円、小人150円

※町内の小中学生は無料。

【問合せ】0820・78・2514

卓球は、経験者の方はもちろん、初心者の方でも気軽に始めることのできるスポーツです。日々の生活をより充実させるためにはじめてみませんか？ラケットの貸出も無料です。経験者の方はもちろん、初心者の方も大歓迎です。

卓球クラブ

今回は現在開催している教室を紹介いたします。お気軽にお問合せください。(0820・78・2512)

当施設ではお客様の心身の健康づくりのお役に立てるよう、運動推進・健康増進の案内とお手伝いを日々行っています。

今回は現在開催している教室を紹介

いたします。お気軽にお問合せくだ

さい。(0820・78・2512)



周防大島町総合体育館



【練習場所】体育館アリーナ

【練習時間】火曜 19時半～20時半

金曜 13時半～15時半

【参加費】月会費100円

備品代年間300円

エアロビクス

音楽に合わせた、リズムカルな有酸素運動は爽快感を味わえます♪

エアロビクスは、有酸素性運動の代表的な運動です。低～中等度の全身運動を長時間(20分以上)行うもので、安全性が高く、年齢・性別に関係なく万人に適した運動です。月に一度身体を整えるコンディショニングの時間もあります。

【練習場所】体育館アリーナ

【練習時間】毎週水曜 19時半～20時半

【参加費】月3000円 体験も受け付けております！

トレーニングルーム

当施設には各種トレーニングに対応できるマシンを設置した「トレーニングルーム」があります。

健康の維持や向上、シェイプアップ、筋力アップなど様々なリクエストに応える使いやすいトレーニング器具を揃えています。

なお、初めての方は初回講習会の

受講が必要となっています。見学は自由ですのでお気軽にお立ち寄りください。皆様のご利用をお待ちしています。

【利用料金】1回220円

～日本ハワイ移民資料館・八幡生涯学習のむら 共同企画～



暑い地方の植物のイメージが強いサトウキビ。かつては周防大島でも親しい植物でした。畑の隅に植えてあって、子どもの頃おやつとしてかじったという思い出を持つ方も多いのではないのでしょうか。

砂糖と周防大島の縁は古く、江戸時代には砂糖商いで財を成した久賀の商家が久賀の玉神社や八幡宮へ寄進をするなど町の発展に尽くし

ています。明治になりハワイへの移民が始まると周防大島からまたくさんの人々がハワイへ渡り、サトウキビ畑で働きました。

そんなサトウキビですが、現在は町内で見かけることも珍しくなっています。そこで八幡生涯学習のむらでは昨年度からサトウキビの栽培に取り組み、今年度は収穫できるまでになりました。意外なことにサトウキビの旬は寒い時期。寒さを乗り越えるために糖分をため込むのだそうです。調べてみると穂が出てから収穫、とのことですが子どもの頃にサトウキビを食べたという方から「穂は見たことがない」という声もありました。そこで冬至が過ぎるのを待って収穫し、さっそくハワイ移民資料館のサトウキビ絞り機で絞ってみると薄い黄緑色のジュースができました。絞っている反対側の茎からも液がしたり落ちてくる様子は感動ものです。今後はサトウキビを楽しむ企画を考えていく予定です。

小学生「ハワイと大島のつながり」を学ぶ

イ館
ワ料
ハ資
本民
日移

10月下旬、城山小学校4年生10名

が当館を訪れ、「ハワイと大島のつながり」をクイズやレイ作り体験を通して学習しました。

最初に、当館の説明です。当館では今からおおよそ140年前にハワイに渡った人々の記録（ハワイでの写真や生活・仕事で使った道具など）を展示しています。

次に子どもたちは、三つの班に分かれ、こちらが用意したクイズに対し、展示資料を熱心に読んだり考えたりして答えました。

クイズ問題

- ① ハワイには何しに渡ったのかな？
- ② 明治18年から明治27年の10年間に大島からハワイに渡った人は何人ぐらいかな？
- ③ 移民の人は、何を作るためにハワイに渡ったのかな？
- ④ ハワイでは、どんな生活をしているのかな？

- ⑤ () 時から()時半まで働いた。一日()時間も働いていた。
- ⑥ 給料は男()ドル 女()ドル
*この給料は、日本より低い？
同じ？ 高い？

● 参加した子どもたちの感想

「昔の人は、ハワイで1日10時間以上働いていることを知り、びっくりしました。サトウキビを作る仕事は大変だったんだと思いました」

「140年も前に、ハワイと行き来が始まったことにびっくりしました。昔の人が、そんな遠くのハワイまで行っていたことを知らなかったからです。3年間も朝6時から夕方4時半まで1日10時間も働く日本人

もすごいと思いました。この大島から3900人の人たちがハワイに行ったこともすごいと思いました」

後半は、数珠玉を使ったレイ作りを通してハワイの文化に触れました。

レイはお守りや魔除けとして作られます。レイの材料の一つであるクワイの実から種を取り出し磨くなど手間をかけてレイを作ります。今回は、大島のあちこちにある数珠玉を集め、子どもたちの手でつなげてレイにしました。私が小さい頃は数珠玉を糸に通してよく遊んだのですが、今の子どもたちはそうした遊びを知らないということで、ビックリしました。

● 参加した子どもたちの感想

「数珠玉のストラップを作るのがとても楽しかったです。ひもに玉を入れるのが一番大変でした。でもいいのが作れたので、家でプレスレットも同じように作りたいと思います」

「数珠玉のストラップを作るのは大変で、友達に手伝ってもらったけど、とても楽しかったです」



ながら小さな玉を一つ一つ糸に通していく作業です。小さな数珠玉のレイ（ストラップ）が出来上がった時の子どもたちの笑顔が印象的でした。Maharō（ハワイ語で「ありがとう」）

このようにして大島とハワイのつながりの一端を学んだ子どもたちでしたが、将来この子どもたちが、ハワイ・海外の人たちと交流したり、ハワイの地を訪れたりする機会があればよいと思いました。

今回学習したハワイ移民の物語を、家族の皆さんに伝えてください。百年以上前のハワイ移民のくらしが、多くの人々によって長く語り継がれることと思います。皆さんよろしくお祈りします。

（井倉清水 山本久代）





星野哲郎が好んで使った「牛歩」印。意図的に縁を欠けさせて味わいを出しています。(星野哲郎音楽事務所所蔵)

講座の中では、周防大島出身の作家星野哲郎が愛した「牛歩」の印や宮本常一の蔵書印など先人も楽しんだ印についても紹介し、周防大島の歴史や文化にふれながらの講座となりました。

(古賀瑞枝)



八幡生涯学習のむら

昨年度もご好評いただいた「印づくり講座」。今年度も12月3日と10日に開催しました。

この講座では、自分の好きな文字や図案をデザインし約3センチ四方の柔らかい石に転写した後、金属のヘラで少しずつ掘り進めていきます。何度か試し押しをしてイメージ通りに仕上がっているか確認しながら、完成に近づけていきました。

その後、くじら資料館と金子みすゞ記念館を回りました。くじら資料館のある通(かよい)地区は古くから捕鯨で暮らしてきた場所で、その歴史や古い捕鯨道具などを展示・紹介しています。また周辺には鯨墓や位牌が残されており、地区全体で学ぶことができます。金子みすゞ記念館では大正末から昭和初期にかけて活躍した童謡詩人金子みすゞの作品をデータベース化し、パソコンで検索・閲覧が可能です。生家を再現した建物もあり彼女の世界に入り込むことができる展示でした。

学芸員の案内のもと、市内の主な文化施設を視察しました。まず、長門市総合文化財センター(ヒストリアながと)でリニューアルの概要を説明していただき、館内を回りました。コロナ禍もあって、気軽に行くことや見ることでできないものの展示については情報機器による映像で疑似体験できたのが印象的でした。個人や学校の先生と協力した展示や職員による手作りの案内板などで来館者に関心と興味を持たせるよう工夫されています。市内の他施設や合併した町村の昔を紹介するコーナーもあり、他の機関との連携の方法も参考になりました。イベントも制限された中ですが、ギャラリートークなどを通して入館者のニーズに対応できるよう意識されていました。

長門市研修



『文化と交流』は町内の図書館で閲覧できるほか、周防大島文化交流センター(宮本常一記念館)のホームページからも無料でダウンロードできます。また、当館では地域交流員制度を設け、町民が主体となった調査研究を促進しています。地域交流員の活動について、興味のある方は当館までお問合せください。

(板垣優河)

『文化と交流』 No.6の発行



このたび、宮本常一記念館では機関誌『文化と交流』No.6を発行しました。本号では、地域交流員である長谷川樹子さんによる周防大島の染織文化探究についての活動報告と、昨年4月に着任した学芸員による宮本常一関係資料についての論考を掲載しました。今後も、当館の職員や地域交流員による調査研究の成果を幅広く紹介し、周防大島をはじめとする農山漁村の生活や文化、また当館が所蔵する資料等の魅力を発信していきたいと考えています。